

結核は 昔の病気と 思っ て いませんか？



結核

という病気をご存知でしょうか。中には、「昔、流行った病気？」と思っている方もあるでしょうが、実は、今なお日本では比較的多い感染症なのです。

国内では、毎年2万3千人以上の方が結核を発病されており、2千人以上の方が結核で命を落とされています。医療が進み、生活水準の高い日本においても、根絶が困難でやっかいな感染症と言えます。

全国的には、結核を発病する人の減少傾向は続いています。佐賀県においては、平成20年の1年間は156人、平成21年には144人、平成22年には177人の方が結核を発病しました。

平成22年に佐賀県内で発病された結核患者の年齢別の状況を見ると、70歳以上の高齢者が多く、患者の63.8%を占めています。また、20歳代から50歳代の働き盛り世代の患者は28.2%を占めています。

また、約30%は周囲に結核菌を感染させる可能性がある状態(結核菌検査で塗抹陽性)で発見されています。できるだけ接触の機会

を減らすこと、早く診断し早期に治療を開始することが感染をくい止める鍵となりますので、咳や痰が長引くときは、結核を疑って早く医療機関を受診することが重要です。

平成22年の佐賀県内での結核を原因とする死亡者は25名(死亡率:人口10万対3.0)であり、昨年の16名(死亡率:1.9)と比べて大幅に増えています。特に、結核を発病したことに気付かず、体力や免疫力がかなり低下した状態になってから治療を始めても、手遅れとなる場合があります。

今年に入り、県内の医療機関や施設での、結核の集団感染事例が散発しました。また、一部の結核治療薬が効かなくなる多剤耐性結核の発生や、結核がまん延している外国から来日された方の結核発病など、新たな課題も浮かび上がってきています。

しかし、結核は、服薬を早期、かつ確実に行えば治る病気です。ので、そう恐れることはありません。一人一人が、結核についての正しい知識を持ち、結核を予防しましょう。(協力:佐賀県健康増進課)

今、なぜ結核なのか

2週間以上の咳
してませんか？

ごぼっ!



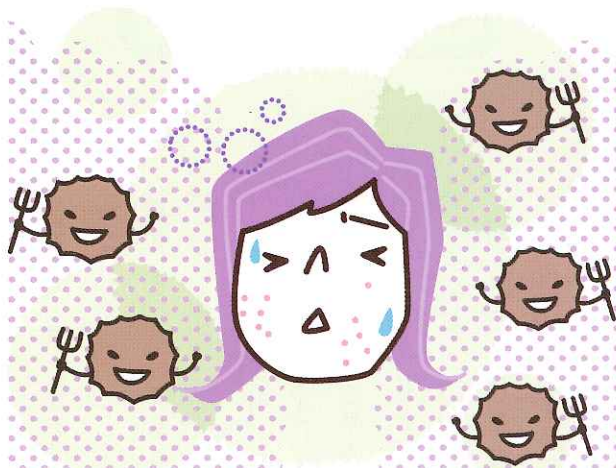
協力：国立病院機構 東佐賀病院 小江俊行先生

50年前まで、年間10数万人と死因の第1位だった結核も、生活水準の向上や医療の進歩により少なくなりましたが、未だに年間2万3千人が発病し2千2百人の方が亡くなっています。世界的には総人口の3分の1が結核に感染していて、毎年170万人が死亡するという世界最

大の伝染病です。日本でも若者の発病が続き、タレントのJOYさんも結核を発病、今も治療中で、この9月、ストップ結核パートナーシップ日本大使になられています。佐賀県では、今年になり5件の集団感染がニュースになるなど、結核はまだまだ過去の病気とは云えないのです。

1

結核は
どうやって
うつるのか

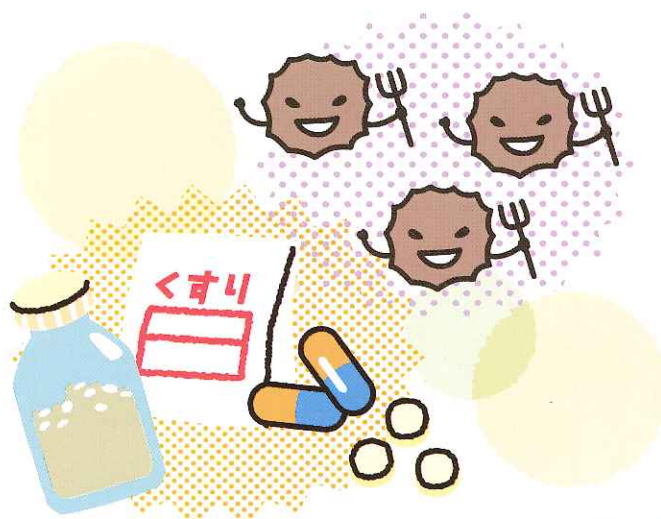


結核の患者さんのくしゃみや咳で飛び散った結核菌を含んだ飛沫は水分を失い、乾燥し飛沫核(小さな埃)となって長時間空中を漂います。その飛沫核を吸入することにより感染する空気感染なのです。結核菌を吸い込んで感染しても大多数の人は強い免疫の力で体の中に結核菌を閉じ込めたまま一生発病することはありません。日本人の場合、4人に1人が体内に結核菌を持っています。結核菌に感染するとツベルクリン反応やQFTという検査が陽性になります。

2

結核は
どんな人が
発病するのか

結核を発病するのは、感染した人の10%以内です。発病の多くは、感染から2年以内が多いのですが、ガン、糖尿病、胃切除、人工透析中の人、あるいはステロイド剤など免疫を抑えるお薬の使用や高齢化などにより免疫力が低下すると、体内に潜んでいた菌を抑えきれなくなり、結核を発病します。お年寄りの結核の大多数は、新たな結核菌の感染によるものではなく、子供のときに感染した結核菌によるものです。



県内の結核感染の現状と傾向について

	結核死亡者数 (人)			活動性結核患者数 (人)			結核新登録患者数 (人)		
	結核死亡率 ※1			結核有病率 ※2			結核り患率 ※3		
	H20	H21	H22	H20	H21	H22	H20	H21	H22
佐賀県	18	16	25	148	117	131	156	144	177
	2.1	1.9	3.0	17.3	13.7	15.4	18.2	16.9	20.8
全国	2,220	2,159	2,126	20,021	18,915	17,927	24,760	24,170	23,261
	1.8	1.7	1.7	15.7	14.8	14.0	19.4	19.0	18.2

※1 当該年に、結核を原因として死亡した患者数及び率(人口10万対)

(佐賀県健康増進課)

※2 当該年末現在、結核の治療を受けている患者数及び率(人口10万対)

※3 当該年に、結核患者として新たに発病した患者数及び率(人口10万対)

3

結核の症状は

結核の初期の症状は、あまりはつきりしたものはありませんが、2週間以上続く咳や痰は赤信号です。なんとなく体がだるいとか、熱っぽいとか、お年寄りにおかれては元気がない、食欲がないということだけのこともあります。



4

結核の治療は
どうするのか

今日、結核はきちんと食事を摂り、毎日お薬をのめば6ヶ月で治ります。症状が消えたからといって服用をやめると治らないだけでなく、時にはお薬の全く効かない多剤耐性結核となります。世界的にはこの多剤耐性結核が増えているのです。食事が摂れなくなって発見された高齢者の結核は死亡率も高くなります。

5

最近の
結核の傾向

感染者は年々高齢化しています。そんな中、若者の感染が増えています。国際交流も盛んになり外国人の結核も増えています。働き盛りの人は少々の咳や痰では受診せず発見が遅れる傾向があります。地域格差も大きく、大都会では何倍もの患者がいます。

“その咳大丈夫ですか”結核は少なくなったとはいえ、まだまだ身近な病気なのです。

